

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL. 19

平成28年11月15日 作成者 鳩間・波多野



第32回安全委員会が11月15日に開催されました

※ 今回の報告ケースについて ※



今回の定例会議では、平成28年8月1日から平成28年9月31日までに起きた、10件の処理対応ケースについて報告をしました。今回報告のケースは、いずれも小学生の間で生じた暴力であり、うち、6件は低学年男子ユニットで生じていました。日常生活の中で起こる些細なちょっかいやからかいから、暴力・暴言に発展していました。

～今回の安全委員会で話された3つのこと～

ユニット化になり、小学生同士の距離感が近い事が原因で、トラブルに発展してしまっているケースが目立ちました。また、対象者も大体限られており、トラブル介入の職員に対して、暴言・暴力が起きているという事が増えています。その中で、子どもに対して「優しく丁寧に相手に伝えること」「何があっても暴力はいけない」という事を職員がしっかり子ども達に伝えることが大切なことだと改めて感じさせられました。また、子どものトラブルを未然に防げるよう、子どもへの声かけや子ども同士の相性等を加味しながら日常のケアを行い、今後は尚一層、職員のスキルアップが図れるよう努力すべきだということが再確認されました。

次に、施設長が安全委員会で取り上げられていることが多い小学生の男子児童に対して、褒められる機会を意図的に設け、達成した際に、ご褒美をあげるという関わりを行いました。この関わりについて、山岸委員長から、望ましい行動に対してご褒美を与えるようにしていくことは、一種の行動療法であり、効果的な対応法であること、児童から職員に対する暴力の対応については、平等且つ、適切に処理されているとの評価を頂きました。

さらに今回中高生の児童は、安全委員会対応の報告がなかったことに関して、ユニット化に移行したことにより、中高生が自室で自分の時間を過ごせることや、大舎制に比べ他者に刺激されることが減った事、また、小学生から安全委員会を経験している子どもが中高生になり、安全委員会が子ども達に浸透していると考えられると施設側から報告しました。また、今後の課題として、中高生児童がユニット間で起こしたトラブルが、ユニット内全体に大きな影響を与える結果につながるということをしっかりと捉えていくことの大切さが話されました。小学校の石破先生や児童相談所の山本副委員長からも、子どもの対応について勉強になりますと感想を頂きました。

今回の定例会議を通じ、外部委員の方々のご意見を参考にし、今後も子ども達、職員が一丸となり、安心・安全な生活が確保出来るよう頑張っていきたいと思います。

今回で2回目の陪席となりました。

報告ケースの内容を聞いてみると、いずれも些細な行き違いから生じているものが多く、いかに日常のコミュニケーションが大切か・・ということを再確認した思いです。

当園の安全委員会も随分浸透してきていると感じ、嬉しく思う反面、最近は職員に対する暴力・暴言が増えているように感じています。子どもも職員も安心・安全な生活を保障されたいものです。

保育士 波多野 浩美

初めて安全委員会に陪席させて頂きありがとうございました。施設から報告された安全委員会対応について、外部の方々の意見を聞く事で、職員の子どもへの関わり方や考え方方に改めて気付くことが出来ました。

安全委員会について、施設内研修に参加し、学びを深めながら、今後子ども達に安心安全な生活をより一層支援出来るように学んでいきたいと思います。

保育士 鳩間 麗虎